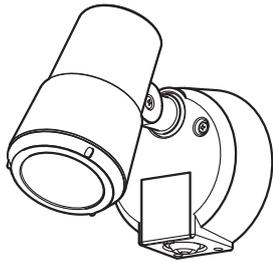


施工説明書

住宅用照明器具(FreePaスポットライト)



品番 **LGWC45000B** **LGWC45000S**
 (オフブラック) (シルバーグレーメタリック)
LGWC45000W **LGWC45000Y**
 (ホワイト) (プラチナメタリック)

お客様へ 器具の施工には電気工事士の資格が必要です。必ず販売店、工事店に依頼してください。
工事店様へ 施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。この説明書は必ずお客様にお渡しください。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

■お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。

警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意 「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

してはいけない内容です。

実行しなければならない内容です。

警告

■取付面

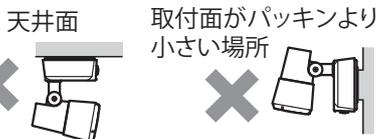
●次のような場所には取り付けない

火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

浴室などの湿気の多い場所 補強のない場所 (ベニヤ板や石こうボードなど) 据置取付



禁止



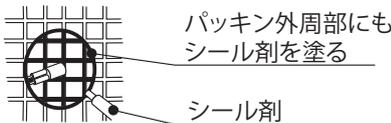
◎この器具は防雨型、壁面取付専用器具です。

●取付面と取付パッキンのスキマおよびパッキン外周部にシール剤を塗る

取付面と取付パッキンとのスキマを防水シール剤などで埋めてください。防水が不完全な場合、火災、感電のおそれがあります。



必ず守る



■その他

●接地工事は、電気設備の技術基準に従って確実に

行う 接地が不完全な場合、感電のおそれがあります。



アース線 接続

■壁スイッチ

●調光機能が付いた壁スイッチの場合は、一般の入切用スイッチに交換する

火災のおそれがあります。



必ず守る



◎調光器の取り外しが必要です。

■その他

●器具の取り付けは施工説明書に従い確実に

行う 取り付けに不備があると火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

●交流100ボルトで使用する

過電圧を加えると過熱し、火災、感電のおそれがあります。

●電源線は端子台の差込み穴の奥まで確実に差し込む

差し込みが不完全な場合、火災、感電のおそれがあります。

●検知部が下になるように取り付ける

浸水による感電のおそれがあります。



検知部

●カバーは確実に取り付ける

取り付けが不完全な場合、浸水による火災、感電の原因となります。

●照射方向を調整したあとは、固定ネジを必ず締め付ける

締め付けが不完全な場合、浸水による火災、感電のおそれがあります。

⚠ 注意



●付属の梱包材は取り除いて使用する
そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。



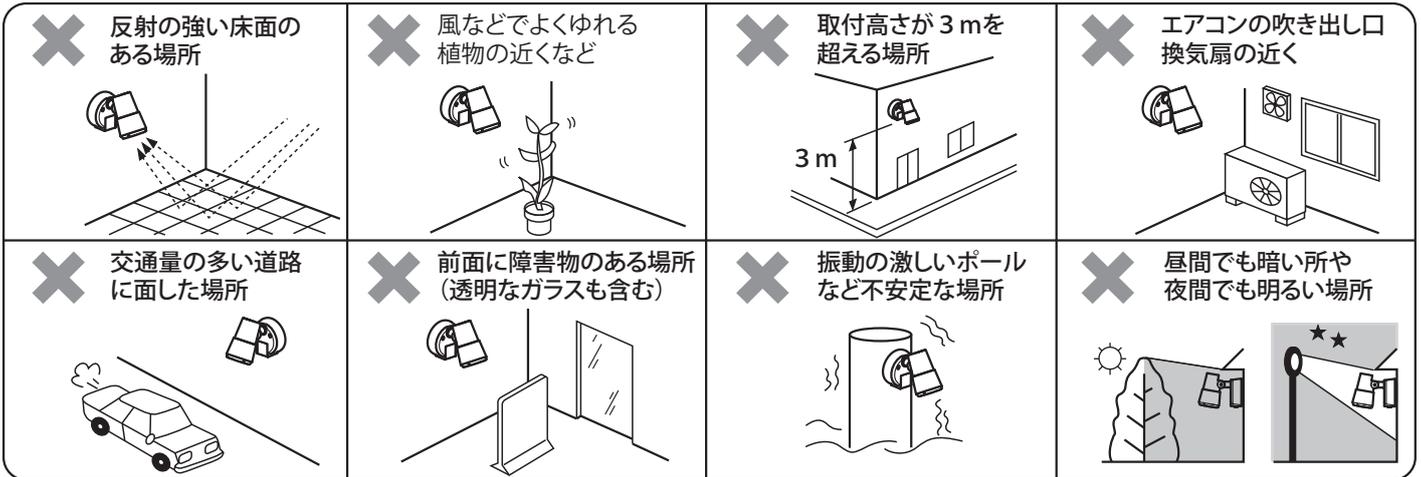
禁止

●温度の高くなるものの上に取り付けない
火災の原因となることがあります。
◎ガス機器やその排気筒の上に取り付けしないでください。

施工前のご確認事項

取付場所についてのご注意

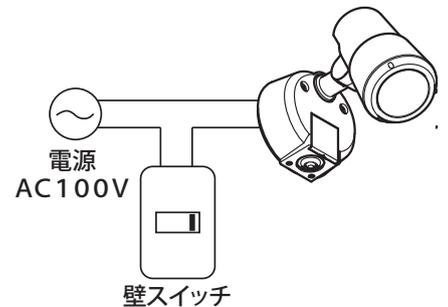
●次のような場所には取り付けしないでください。
この器具は、周囲の明るさと温度変化をセンサで検知して動作するため、以下のような場所に取り付けると誤動作の原因となります。



●一般屋外仕様ですので、海岸隣接地帯では、塩害により短期間で錆が発生するおそれがあります。

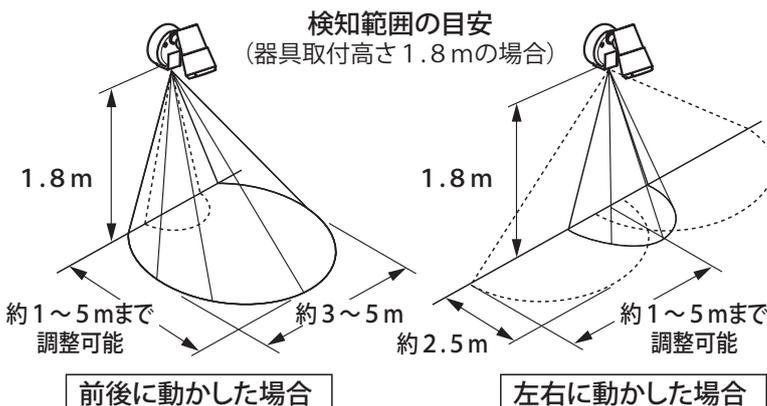
配線についてのご注意

- 必ず壁スイッチを設けてご使用ください。(スイッチは別途ご用意ください)
- ・連続点灯への切り替え操作ができません。
- ・センサによる点灯モードに異常が発生したとき、リセットできません。
- 壁スイッチは器具1台につき1個設置してください。複数台を1個のスイッチに配線すると、点灯状態にバラツキが発生するおそれがあります。
- 壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチがONの状態でも照明器具が消灯状態(センサ待機状態)のときは、パイロットスイッチ表示が点灯しない場合があります。(故障ではありません)
- 通常は壁スイッチをONにした状態でご使用ください。



センサの検知範囲

- センサの検知部を動かして、検知範囲を調整できます。(センサの検知部は全方向に約20度動きます)
- 器具の取付高さ1.8m(標準)~3mの間では、検知範囲は変わりません。



ご注意

- この器具のセンサは、熱源の温度変化を動きとしてとらえます。そのため、動物、自動車など人以外の動きも検知して照明が点灯する場合があります。また、静止状態の人などは検知しない場合があります。
- 検知範囲は気温、服装、移動速度、進入方向、体温、器具の取付高さや傾きなどにより変化します。
- 夏場など、気温が体温に近い状態になると、温度変化が小さいため検知しない場合があります。
- センサの性能上、器具に向かってまっすぐ近づいた場合、器具の近くまで近づかないと検知しないことがあります。器具の故障ではありません。

調節ツマミの設定について

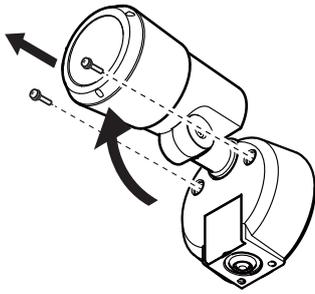
この器具は取り付け後、ご使用の環境に合わせてセンサの検知範囲、調整ツマミの設定が必要です。
必ず、6ページ「検知範囲と調整ツマミを設定する」をお読みのうえ、設定してください。

各部のなまえ

取付前のご準備

①取付ネジ(2本)を取り外す。

固定ネジを緩めて本体を上方向に可動させて取り外してください。



取付ネジ(2本)
(ワッシャ、Oリング付き) 締め付ける

緩める

- ②フランジと取付台を分離する。
- ③接地端子ネジを取り外す。
- ④カバーを取り外す。
- ⑤梱包材を取り除く。
- ⑥ランプを取り外す。

ソケット
本体
ストッパー

締め付ける

緩める

取り外す

取り付ける

注意

ランプが緩まないよう
確実に取り付けてください。

梱包材
(取り除く)

取り外す

カバーパッキン

カバー

取り付ける

カバーは、ガラスの製法上、
気泡が入る場合があります
(異常ではありません)。

<付属部品>

施工する前にまず付属品をご確認ください。

- 木ネジセット(2本)
木ネジパッキンを切り離して使用してください。



固定ネジ

フランジ

木ネジ(2本)

調整ツマミ

取付台

接地

アース線

電源線

器具内用
アース線

接地端子ネジ

ナット

水抜穴

フランジカバー

<フランジカバーの取り付け・取り外しかた>

フランジカバーは必ず取り付けて使用してください。
フランジカバーを外したまま使用すると
水が浸入し、感電、故障の原因となります。

取り外す

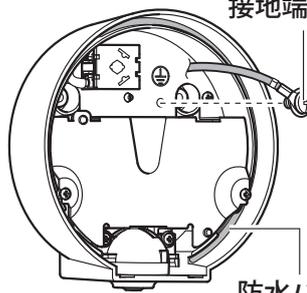
取り付ける



<フランジ裏面>

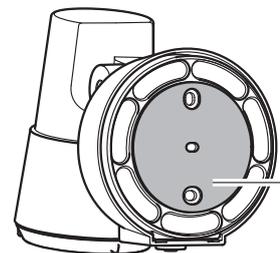
接地端子ネジ

防水パッキン



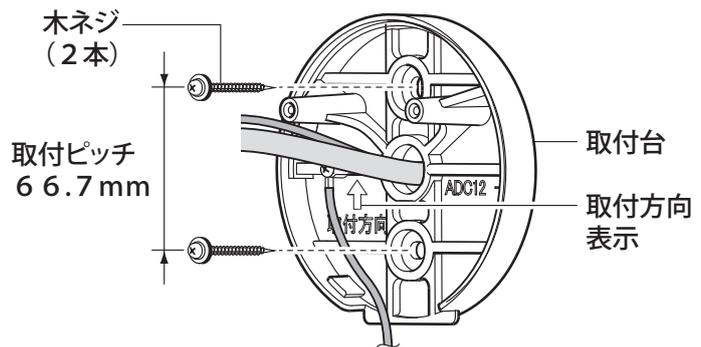
<器具裏面>

取付パッキン



1 付属の木ネジ(2本)で取付台を取り付ける

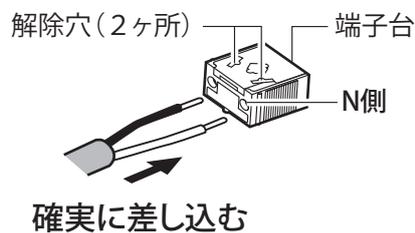
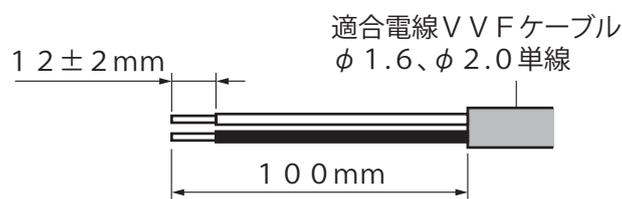
- ・取付方向表示に従って取り付けてください。
- ・木ネジに平ワッシャ、木ネジパッキンが取り付けられていることを確認してください。



2 端子台に電源線を接続する

①電源線を下図のように加工する。

②電源線を端子台に差し込む。

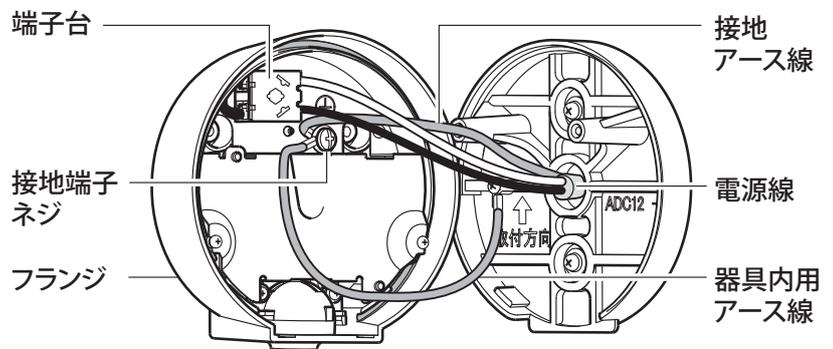


電源線の外しかた
マイナスドライバー等
で解除穴を押しながら
電源線を引き抜く

3 接地工事をする

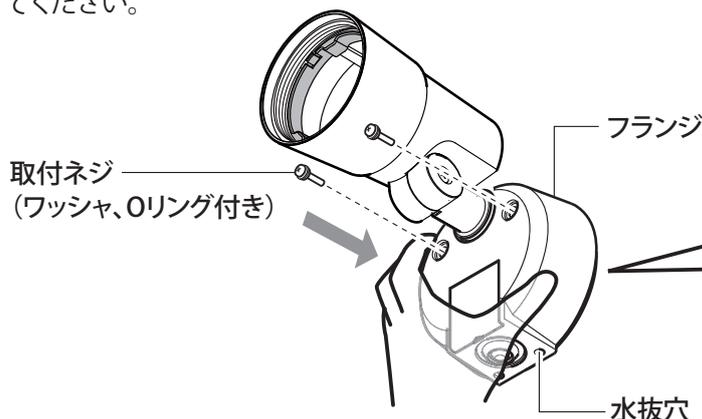
接地端子ネジからD種(第3種)接地工事を行う

- ・器具内用アース線と共に接地アース線をフランジ裏面の接地端子ネジに取り付けてください。



4 取付ネジ(2本)でフランジを取り付ける

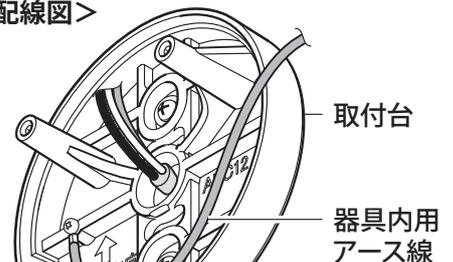
- ・取付ネジにワッシャ、Oリングが取り付けられていることを確認してください。
- ・器具を手で押さえ、左右交互に取付ネジを締め付けてください。



注意

器具内用アース線は取付台に収まるようにして、フランジを取り付けてください。

<配線図>



5 ソケットにランプを取り付ける

注意 ランプが緩まないよう確実に取り付けてください。

6 本体にカバーを取り付ける

注意 取付前に本体内側とカバーパッキンに付着しているゴミ、ホコリなどをきれいに取り除いてください。カバー底面がストッパーに当たるまで確実に締め付けてください。締め切った状態でも、カバーと本体はすき間が空きます。



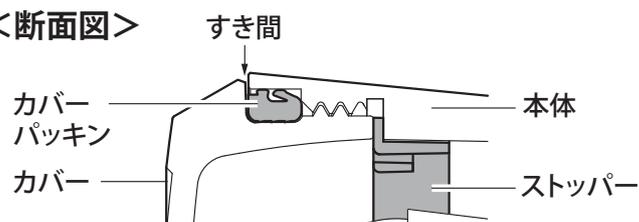
警告



カバーは確実に取り付ける

取り付けが不完全な場合、浸水による火災、感電の
必ず守る 原因となります。

<断面図>



7 検知範囲と調整つまみを設定する

☞ 6 ページ参照

・調整つまみの設定はフランジカバーを取り外して行う。

注意 フランジカバーは必ず取り付けて使用してください。外したまま使用すると水が浸入し感電、故障の原因となります。

8 照射方向を調整する



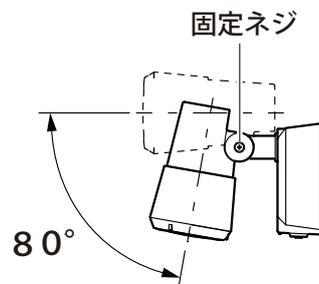
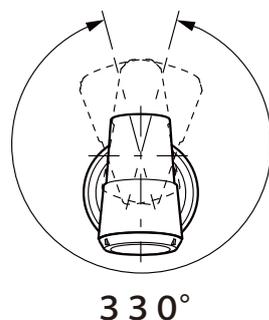
警告



照射方向を調整したあとは、固定ネジを必ず締め付ける

締め付けが不完全な場合、浸水による火災、感電の
必ず守る おそれがあります。

調整可能範囲



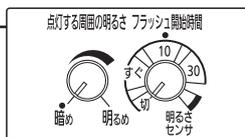
- 上下照射角度の調整
- ①固定ネジを緩める。
 - ②上下照射角度を調整する。
 - ③固定ネジを締め付ける。

設定の前に

- ①壁スイッチをOFFにする
- ②フランジカバーを取り外す  3 ページ「各部のなまえ」参照

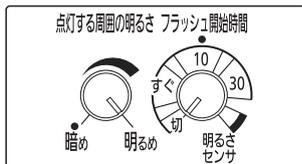
1 センサの検知範囲を調整し、点灯確認をする

出荷時の設定



[手順]

- ①あらかじめ、調整ツマミを以下の設定にする



点灯する周囲の明るさ——「明るめ」(右いっぱい回す)
フラッシュ開始時間——「切」(左いっぱい回す)

- ②検知部を動かし、設置場所に合わせて検知範囲を調整する

- 検知部は、全方向に約20度動きます。
- センサの検知範囲は、 2 ページ「センサの検知範囲」を参照ください。

- ③壁スイッチをONにし、センサの検知範囲の外に出る

 約40秒間点灯してから消灯します。

消灯しない場合は、以下の原因が考えられます。

- センサの検知範囲に入っている ⇒ センサの検知範囲から外に出る
- 連続点灯になっている (検知部が赤く光ったまま) ⇒ 壁スイッチを一度OFFにし、5秒以上おいて再び壁スイッチをONにする

- ④消灯したら器具に近づいて、点灯することを確認する

- センサの検知範囲の外に出てから約5秒後に消灯します。

2 いったん壁スイッチをOFFにして使いかたに合わせて調整ツマミを設定する

以下の4種類の使い方ができます。(詳しくは  取扱説明書3ページ)

使いかた	防犯すぐモード	防犯設定時間後モード	ON/OFFモード	明るさセンサモード
動作	人が近づくとすぐにフラッシングします	人が近づいてから10秒後または30秒後にフラッシングします	暗くなって、人が近づいたときに点灯	暗くなったら点灯 明るくなったら消灯
おすすめのツマミ設定				
詳しい設定方法	 取扱説明書4ページ	 取扱説明書4ページ	 取扱説明書5ページ	 取扱説明書6ページ

3 フランジカバーを取り付ける

 3 ページ「各部のなまえ」参照

4 壁スイッチをONにする

 スイッチONにした直後は周囲の明るさに関係なく、約40秒間点灯します。